

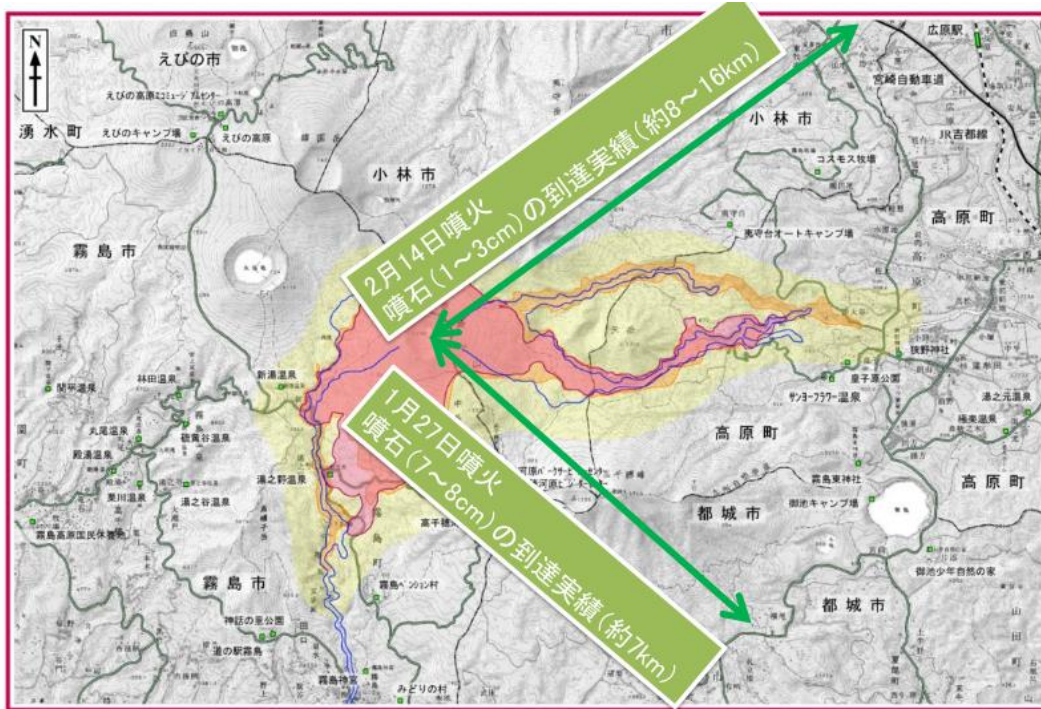
新燃岳噴火時の対応

1. 対応の基本

新燃岳噴火時に噴石・火山灰・空振等から身を守るために、教職員は、情報収集や状況を把握し生徒の安全確保に適切に対応する。

(1) 新燃岳の噴石到達範囲

2011年新燃岳噴火時、十数km離れた所にも噴石（こぶし大）が到達している。風向きによっては本校(距離16km)にも到達する可能性がある。



(2) 2種類の噴石の噴出から落下までの時間

軽石状の噴石は高度2000mまで上昇し、約10km離れた所に落下するまで約18分かかかる。また、破片状になり固まった硬い溶岩は、高度2000mまで上昇し約10km離れた所に落下するまで13分かかかる。噴火が確認されてから10分以内に、建物や屋根の下に避難するように生徒に指導しておく。

(3) 空振について

空振とは爆発的噴火に伴い発生する空気の強い振動である。空振による主な被害事例は、ガラスの破損やガラスの飛散によるケガ、扉が外れて倒れることによるケガと扉の突然の開閉によるケガ等がある。噴火時はガラス窓や扉に近づかないように生徒を指導する。

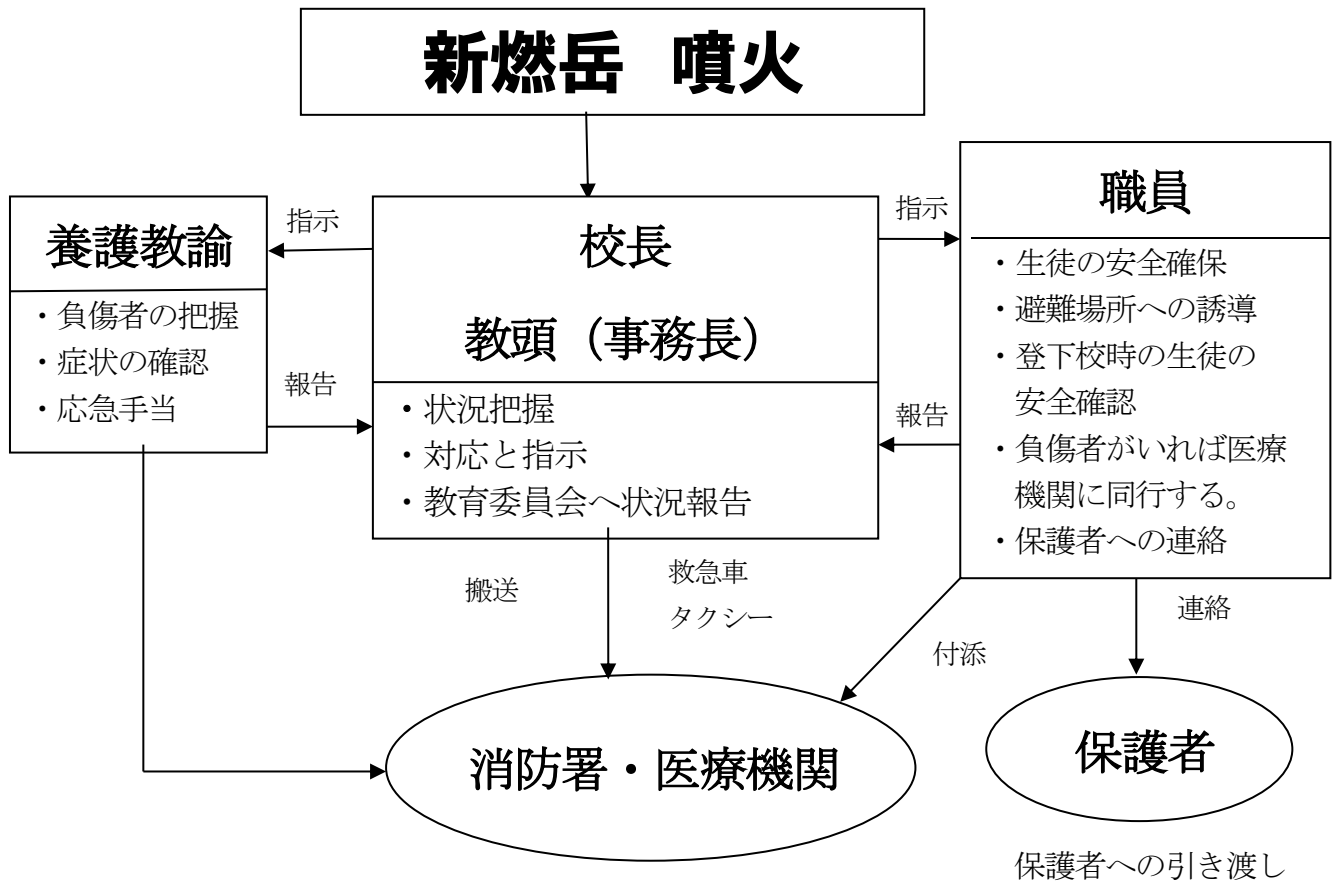
2. 学校での対応

- (1) 日頃から噴石（こぶし大）から身を守る方法を知らせる。風向き（南西）にいつも注意を払うよう指導する。また、火山灰が、多量に降った場合、マスクの着用やバイク・自転車等の運転に注意することを事前に指導しておく。
- (2) 生徒に学校や自宅と新燃岳の位置関係を確認させる。特に、高千穂小学校区は新燃岳に近いので注意喚起する。
- (3) 噴火時は、登下校を避けること。噴火時危険が予測される場合、ヘルメットの着用をすることを生徒に指導する。
- (4) 野外での活動時に噴火が起きたら速やかに生徒や職員等を屋内に誘導すること。
- (5) 新燃岳に面したガラス窓や扉には、噴火時は近づかないように生徒を指導する。
- (6) 学校で危険と判断した場合、担任等で保護者と連絡をとり迎えにきてもらう。

3. 新燃岳噴火時の緊急連絡体制・職員の役割分担

☆対応のポイント

- (1) 生徒の安全確保・生命維持
- (2) 正確な情報収集による的確な判断と指示
- (3) 適切な対処と迅速かつ連絡・通報



連絡先	
霧島市消防局北消防	TEL : 0995-78-2657
学校医 大庭医院	TEL : 0995-76-1984